

F P まつもと通信

ちょっと得する「保険」や「年金」についての話題をお届けします。

ご挨拶

暑中お見舞い申し上げます。

梅雨が明けた途端、毎日本当に暑い日が続きますが、熱中症には十分にお気を付けてください。

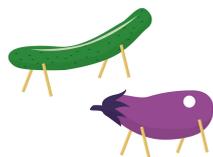
1945年（昭和20年）8月15日の終戦から今年で74年です。日常が戻ってきた1947年から49年は第一次ベビーブームでした。

1947年 2,678,792人
1948年 2,681,624人
1949年 2,696,638人

毎年260万人以上が誕生しました。その数年後に日本は高度成長時代を迎えますがこの数字を見ただけでも勢いを感じますよね。

ちなみに昨年の出生数は、918,397人でした。このような数字を見ると6月以降話題になっている年金の問題もある意味当然といえるのではないのでしょうか？

しっかりと自助について考える必要がある時代になったのかもしれないですね。



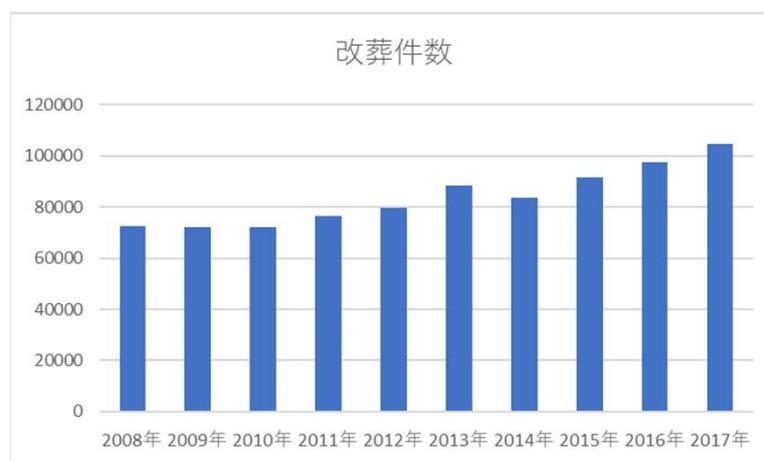
今月号のちょっと気になるお金のコラム

「年金だけでは2000万円不足」という金融庁の報告書には現役世代の人は、早くから積立を、とあります。今月は早くから長く積立をした場合の効果について確認してみます。

8月はお墓参りに行く方も多いのではないのでしょうか？

核家族化、高齢化でお墓についての考え方も以前にくらべ多様化していると言われています。

下図は2008年から2017年までの改葬の許可件数の推移です（お墓の移転や墓じまいには改葬の許可が必要）。



2017年には初めて10万件を超え10年前の1.4倍になりました。

東京都が行った2015年インターネット都政モニター「東京都の霊園」アンケート結果によると、お墓を持っている人の心配事のトップ3は、

- ・ 「お墓の承継者」
- ・ 「維持管理の経費と手間」
- ・ 「お墓へのアクセス」

少子化によりお墓の承継に不安を感じている人が多いようです。

お盆の時期に、お墓の将来について少し考えてみるのも良いかもしれませんね。



F P 松本相談センター
CFP・IFA・DCコンサルタント
媚山裕之
〒390-1702
長野県松本市梓川梓856-26
0263-76-1250 090-8741-7358
info@fp-matsumoto.com
<https://fp-matsumoto.com>

2012年から2015年までの3年間、社会保険労務士として「年金事務所における年金相談業務」に従事。そこで、数多くの“悲惨な老後の実態”を目の当たりにし、老後に向けた資産形成の必要性を痛感。国も勧める、“確定拠出年金”や“つみたてNISA”を活用した「長期・分散・つみたて投資」を真面目に、地道に推進。クイズやゲームを活用した『つみたて投資セミナー』は「わかりやすく、ためになる！」と多くの受講者からご支持をいただいております。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

積立投資の推移



N社バランスファンドのデータによる（コスト控除後）

	積立合計額	株式75%	株式50%	株式25%
2019年5末	270,000	263,319	266,265	270,356
2019年6末	280,000	279,120	281,150	284,739
2019年7末	290,000	293,575	294,433	297,226

2017年3月から開始した積立投資は図表のようになりました。

確定拠出年金のような長期の積立投資で成果を得るためには以下のポイントが大切です。

投資期間に応じた資産配分

積立期間が長い場合には株式の比率を多く、受取時期が近くなったら値動きが小さい債券の比率を多めにする。

大幅に値下がりした場合

積立期間が十分にある場合は、株式への資産配分の増額、掛金の増額を検討する。

株式・債券の特徴を理解して長期継続する。

株式や債券の特徴をよく理解して、様々なニュースや情報に惑わされず投資を長期継続することが成果に結びつきます。

米国株は7月に史上最高値を更新しました

	日経平均	NYダウ	ドル円
6月末	21275.92	26599.96	107.88
7月末	21462.02	26864.27	108.59
騰落率	0.87%	0.99%	

経済ニュースなどでは、次のアメリカの利下げが焦点、などと報じられることが多くなると思います。

また、米中貿易摩擦、ホルムズ海峡、など経済を停滞させる要因は多くありますが、長期の積立投資では、短期的な出来事による株価の上下を上手にとらえるのではなく、株式会社、世界経済全体の長期の成長の果実を受取ることを目的としています。

日々のニュースに惑わされず積立投資を継続しましょう。

6月の金融庁の報告書「高齢社会における資産形成・管理」以降、年金や保険のお問合せがすごく増えていきます。

報告書には年代別の心構えも記載されていました。その中には「現役世代は、少額からでも積立を早く始めること」、とありましたが、確定拠出年金はまさにメインの積立方法の一つではないでしょうか？

今月は実際に長期に渡り積立投資をしていたらどうなっていたのか、積立を開始してすぐに大きく値下がりした場合どうだったのかを振り返ってみたいと思います。

例として使うのは、世界株価指数（MSCI ACWI）です。先進国23か国、新興国26か国の株式市場を反映しており、世界の株式市場の85%をカバーしています。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

いわば、日経平均株価やニューヨークダウ平均株価の世界版です。

下図は1987年12月から2019年6月末までの株価の推移です。



①の時期はITバブル崩壊からイラク戦争に至る時期で最大48%値下がりしました。②の時期はリーマンショックで最大56%の値下がりでした。ただし時間の経過とともにどちらも回復していることがわかります。

下図①は2000年3月（①の一番高い時）に積立を開始した場合どうなっていたかを表しています。



積立額を評価額が下回った時期は積立開始から2003年11月までの4年3ヶ月（最大-31%）と2008年10月から2009年6月までの10か月（最大-31%）でした。

②の時期に積立開始したのが下図になります。



積立開始から2009年8月までの1年11か月はマイナス（最大-38%）、その後2012年5月まではプラスだったりマイナスだったりでした。

これを見る限りはある程度長く続けていけばそんなに怖がる必要はない、また、長く積立を継続しているとそれなりにまとまった資金になる、と見る事ができるとは思いますが皆さんはどのように感じますか？

注) 上記は、下落時に積立を開始した場合のイメージを理解するための株価指数でのシミュレーションです。実際の投資信託を利用した場合は結果が異なることがあります。

ちょっと気になるお金のコラム

6月の金融庁の報告書「高齢社会における資産形成・管理」以降、年金や保険のお問合せがすごく増えています。家計や貯蓄の状況はおひとりおひとり違いますからそれに応じてプランを作ることの大切さを改めて感じています。

報告書には年代別の心構えも記載されていました。その中に、「現役世代は、少額からでも積立を早く始めること」、とあります。

今月は、少額からでも早く始めることの効果について整理してみました。

利用するのは金融庁のつみたてシミュレーションです。金額や期間を変えると様々なパターンが計算できます。検索→「金融庁 つみたてシミュレーション」

https://www.fsa.go.jp/policy/nisa2/moneyplan_sim/index.html

最初は、毎月2万円を異なる期間、積立をした場合のシミュレーションです。

積立額	積立期間	積立金額合計	運用利回り	最終金額	増加率(倍)
20,000	10年	2,400,000	3%	2,794,828	1.16
20,000	20年	4,800,000	3%	6,566,040	1.37
20,000	30年	7,200,000	3%	11,654,738	1.62

積立金額、運用利回りは同じでも積立期間の違いで殖え方に随分と違いがあることに気が付きます。

次は積立合計は同額で期間が異なるとどうなるか確認してみました。

積立額	積立期間	積立金額合計	運用利回り	最終金額	増加率(倍)
10,000	20年	2,400,000	3%	3,283,020	1.37
20,000	10年	2,400,000	3%	2,794,828	1.16
40,000	5年	2,400,000	3%	2,585,869	1.08

運用利回り、積立合計額は同額ですが、少額でも時間をかけた方が沢山殖えることがわかります。

3番目は1000万円をためるためには毎月いくらずつ積立ればよいかのシミュレーションです。

目標金額	運用利回り	積立期間	毎月の積立金額	積立金額合計	増加率(倍)
10,000,000	3%	10年	71,561	8,587,320	1.16
10,000,000	3%	20年	30,460	7,310,400	1.37
10,000,000	3%	30年	17,160	6,177,600	1.62

10年で貯めようと思うと毎月7万円強の積立が必要になりますが、30年かけられるのであれば、毎月17,000円程度、これなら手が届く方も多かもしれませんね。

以上3つのシミュレーションを見てきました。こうしてみると金融庁の報告書にある「現役世代は、少額からでも積立を早く始めること」、を検討してみる価値があるように見えますがいかがでしょうか？

今回はすべて同じ運用利回りで計算をしましたが、実は資産運用のセオリーの一つに、積立期間が長ければより高い期待利回りの商品を利用してよい、というものがあります。

そうであるならなおさら早く初めて長く続けることはメリットがありそうですね。

資産運用などと言うとまとまった資金が必要という印象があるかもしれませんが、今ではこのシミュレーションのように少額からでも積立ができる商品もあります。

何をどのように始めれば良いか、気になる方は是非お問合せください。



お金のこと、年金のこと、保険のこと、 すっきりしたい方、安心したい方は無料FP相談をご利用ください

- ✓ 保険料を払いすぎているか確認したい
- ✓ 自分が加入している保険がどのような時にでるのか確認したい
- ✓ 年金がいくらぐらいもらえるのか知りたい
- ✓ 年金が不安だがどのように準備したらよいか知りたい
- ✓ 火災保険や自動車保険のお得な入り方を知りたい
- ✓ 確定拠出年金の商品選びについて教えて欲しい
- ✓ その他



このようなことで少しでも気になることがある場合はご相談ください。ニュースレター会員の方向けに無料でFP相談を行っています。

ご相談事例

- 昔に入った生命保険を見直して毎月の保険料が大幅にダウン。
- 年金定期便の見方がわかり、具体的に老後資金準備のイメージがつかめた。
- 最近の医療制度や医療技術に合わせた保険に変更でき安心した。

FP無料相談 お申込

ご確認したい項目に、必要事項をご記入の上、ファックスでお申込ください。折り返しご連絡を差し上げます。

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 生命保険のお得な入り方 | <input type="checkbox"/> 年金定期便の見方 |
| <input type="checkbox"/> 加入生命保険の内容を確認したい | <input type="checkbox"/> 老後資金の準備について |
| <input type="checkbox"/> がん保険・先進医療保険について | <input type="checkbox"/> 教育資金の準備について |
| <input type="checkbox"/> 損害保険のお得な入り方 | <input type="checkbox"/> 年金商品の選び方 |
| <input type="checkbox"/> その他 | <input type="checkbox"/> 確定拠出年金の商品選びについて |

お名前

電話番号

メール

 (ブロック体でご記入ください)

勤務先

お役職

お問い合わせはホームページからも承ります⇒
<https://fp-matsumoto.com>



↓ FAX:050-3730-0380 ↓

個人情報の利用目的：当該サービスを提供。当社サービスのご案内